

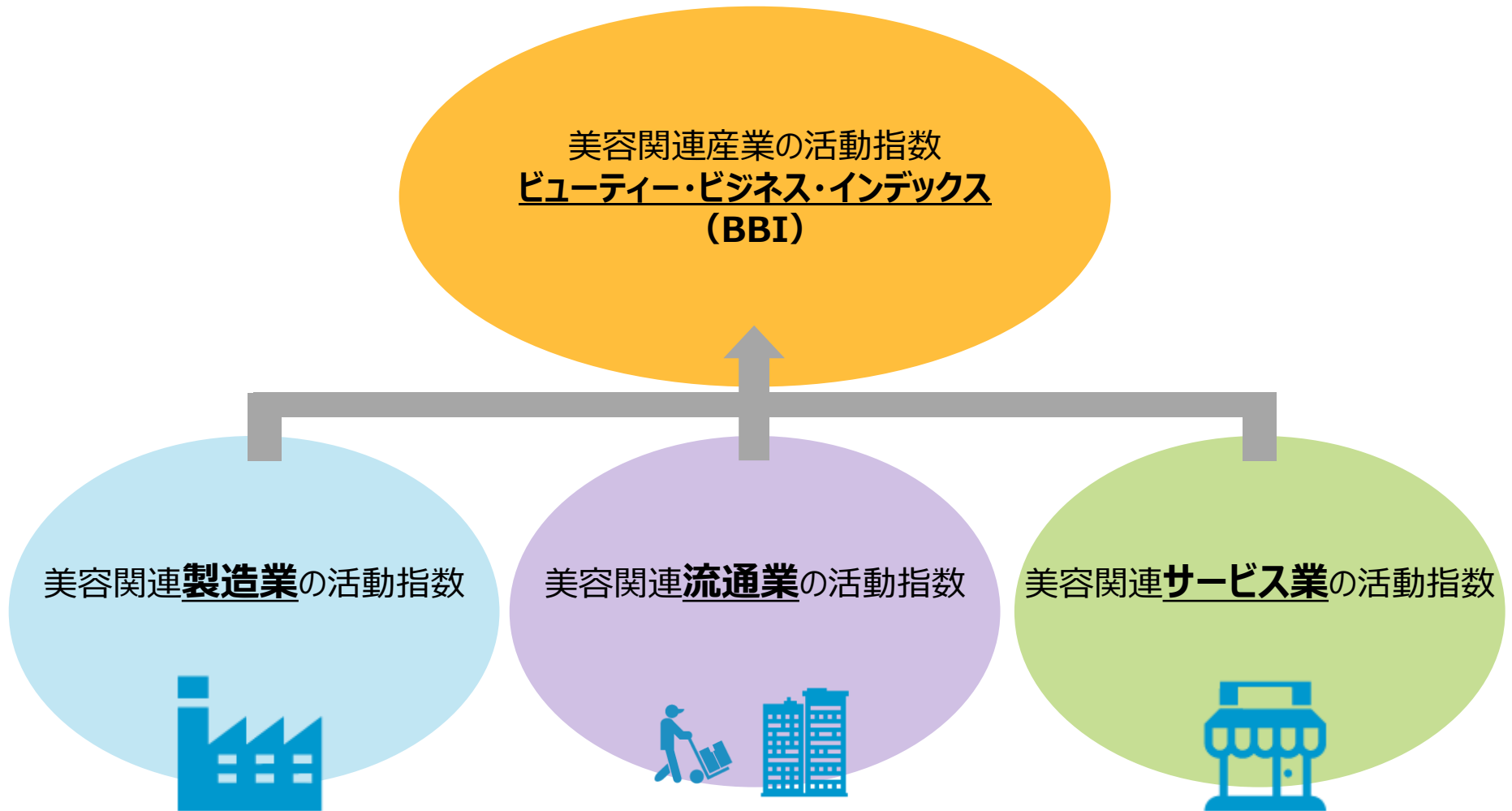
平成28年上期の ビューティー・ビジネス・インデックス（BBI）と 鉱工業生産を動かす化粧品生産の動向



平成28年11月
経済解析室

ビューティー・ビジネス・インデックスの概観

- 美容関連産業の活動を総合して、ビューティー・ビジネス・インデックス(BBI)を作成。
- 美容関連産業活動は大きく美容関連製造業、美容関連流通業、美容関連サービス業に大別され、これら3つの活動指数を統合することでBBIとしている。

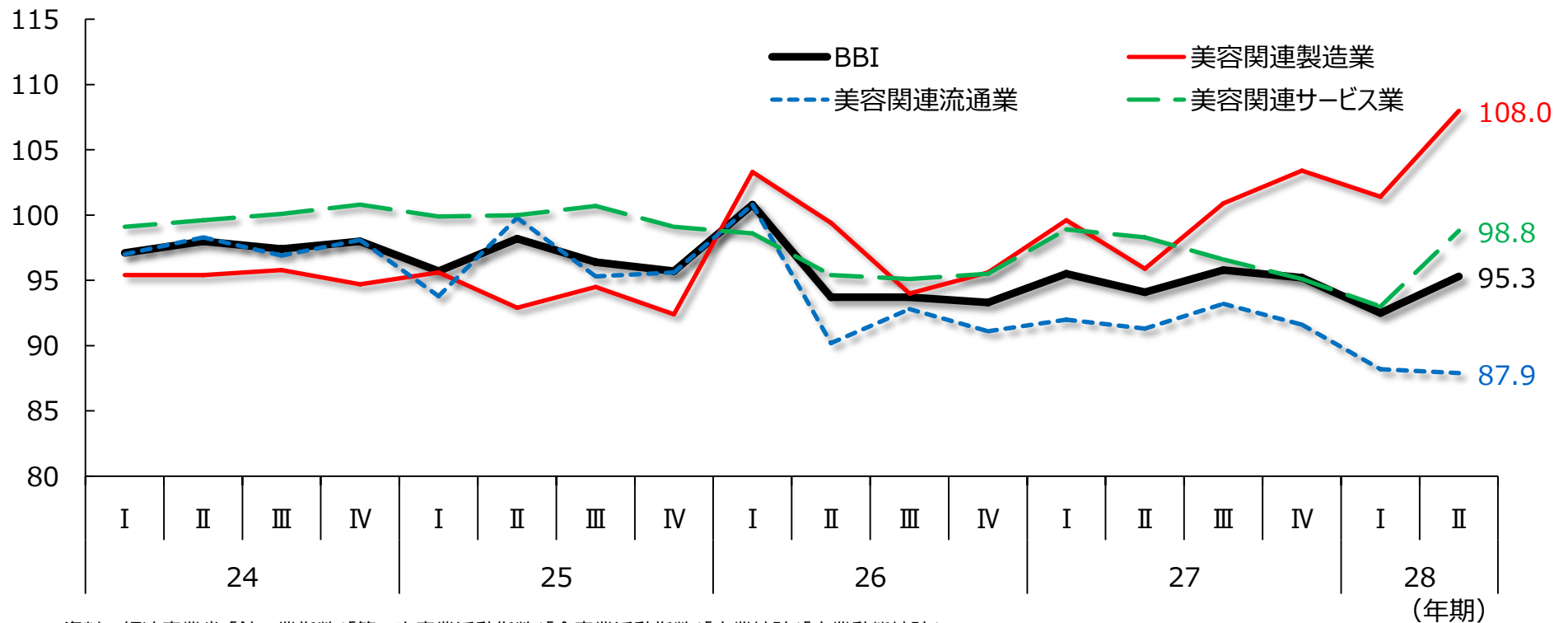


美容関連産業の動向（四半期）

- BBI全体としての動きは鈍く、28年4-6月期の指数水準は95.3、27年7-9月期の95.8以来の水準。
- 長期的なBBIの低下の主因は、流通業の低迷で、BBI全体の消費税率引上げ後の落ち込みから完全には、回復できていない。
- ただ、BBIの今年4-6月期の伸びは大きく、27年後半から、美容関連製造業の伸びが著しい。

ビューティー・ビジネス・インデックス（BBI）の推移

(季節調整済指数、平成22年=100)

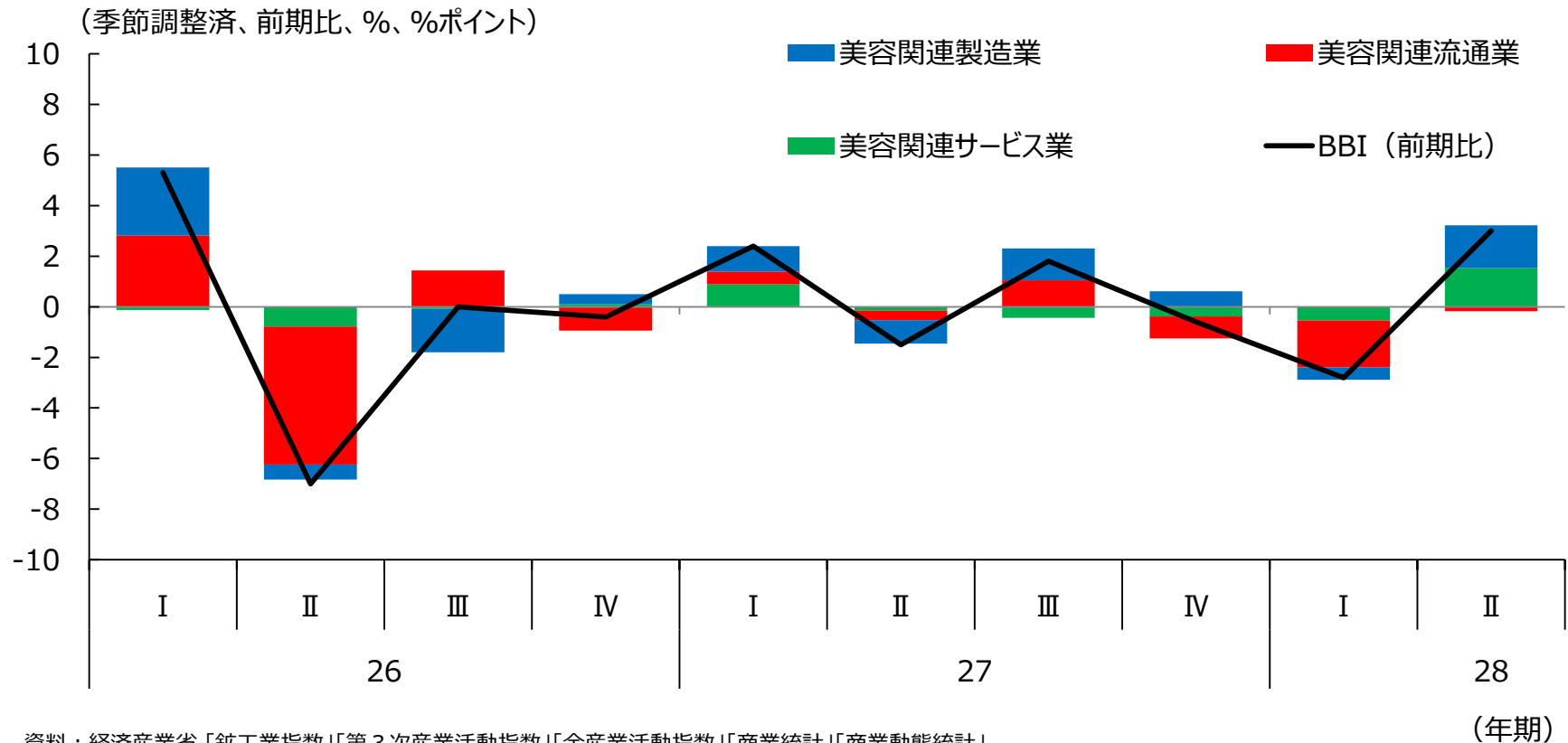


資料：経済産業省「鉱工業指数」「第3次産業活動指数」「全産業活動指数」「商業統計」「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」、厚生労働省「薬事工業生産動態統計」、日本銀行「企業物価指数」、日本百貨店協会「百貨店売上高」(商品別売上高)より作成。(試算値)

部門別にみたBBIの四半期前期比変動要因

- 28年4-6月期のBBIの前期比3.0%上昇。この上昇幅は、駆け込み需要のあった26年1-3月期以来。
- BBI前期比に対する各部門の寄与度は、美容関連製造業（1.69%ポイント）、美容関連サービス業（1.53%ポイント）と、ほぼ同等の上昇寄与。

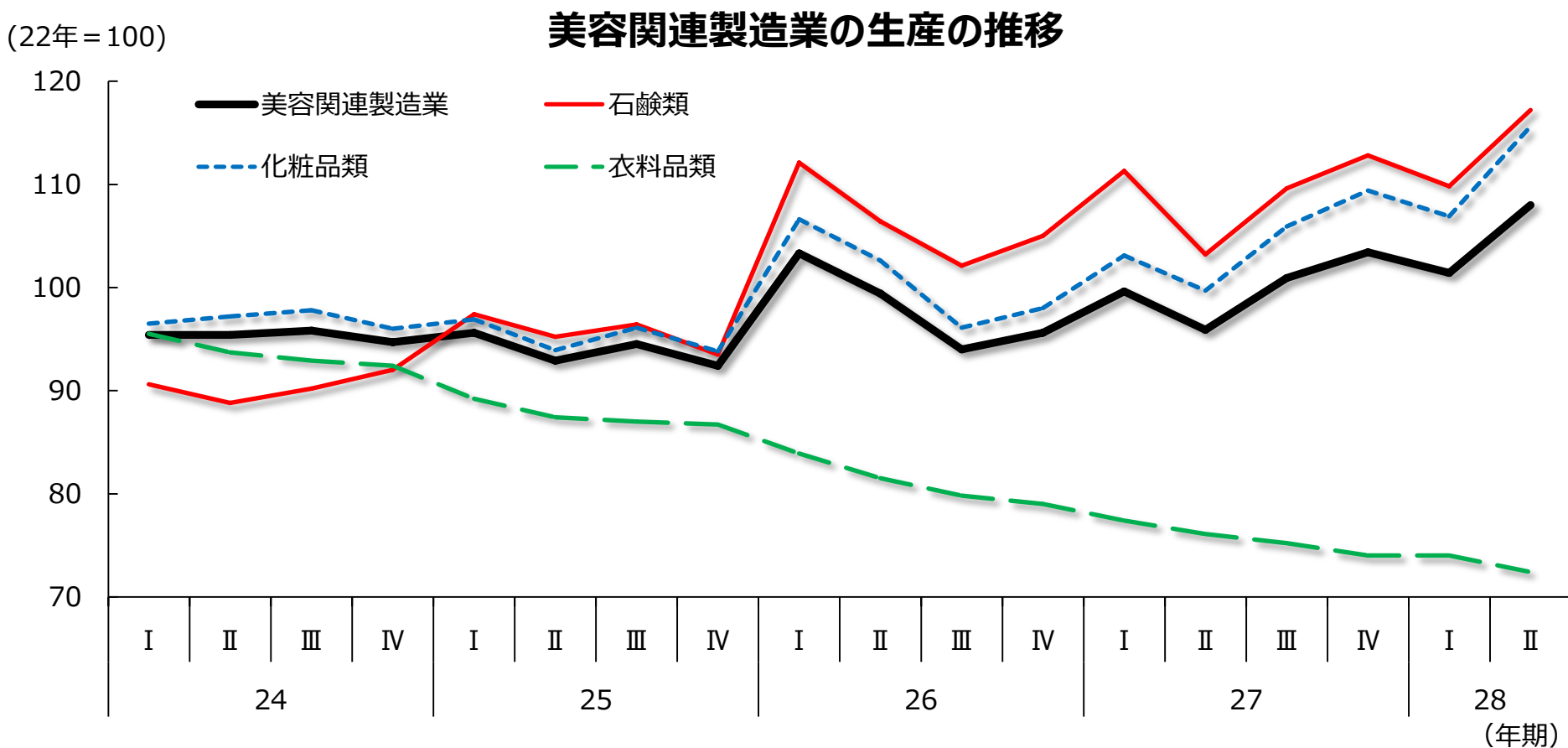
BBIの変動の部門別要因分解



資料：経済産業省「鉱工業指数」「第3次産業活動指数」「全産業活動指数」「商業統計」「商業動態統計」、総務省「消費者物価指数」、厚生労働省「薬事工業生産動態統計」、日本銀行「企業物価指数」、日本百貨店協会「百貨店売上高」(商品別売上高)より作成。(試算値)

美容関連製造業の四半期の推移

- 27年後半から伸びている美容関連製造業の指数値は、4-6月期に108.0、前期比6.5%上昇。既に消費税率引上げ前の水準を超えた推移。
- 内訳をみると、衣料品類は一貫して低下だが、特に26年半ば以降、石鹸類、化粧品類がけん引。



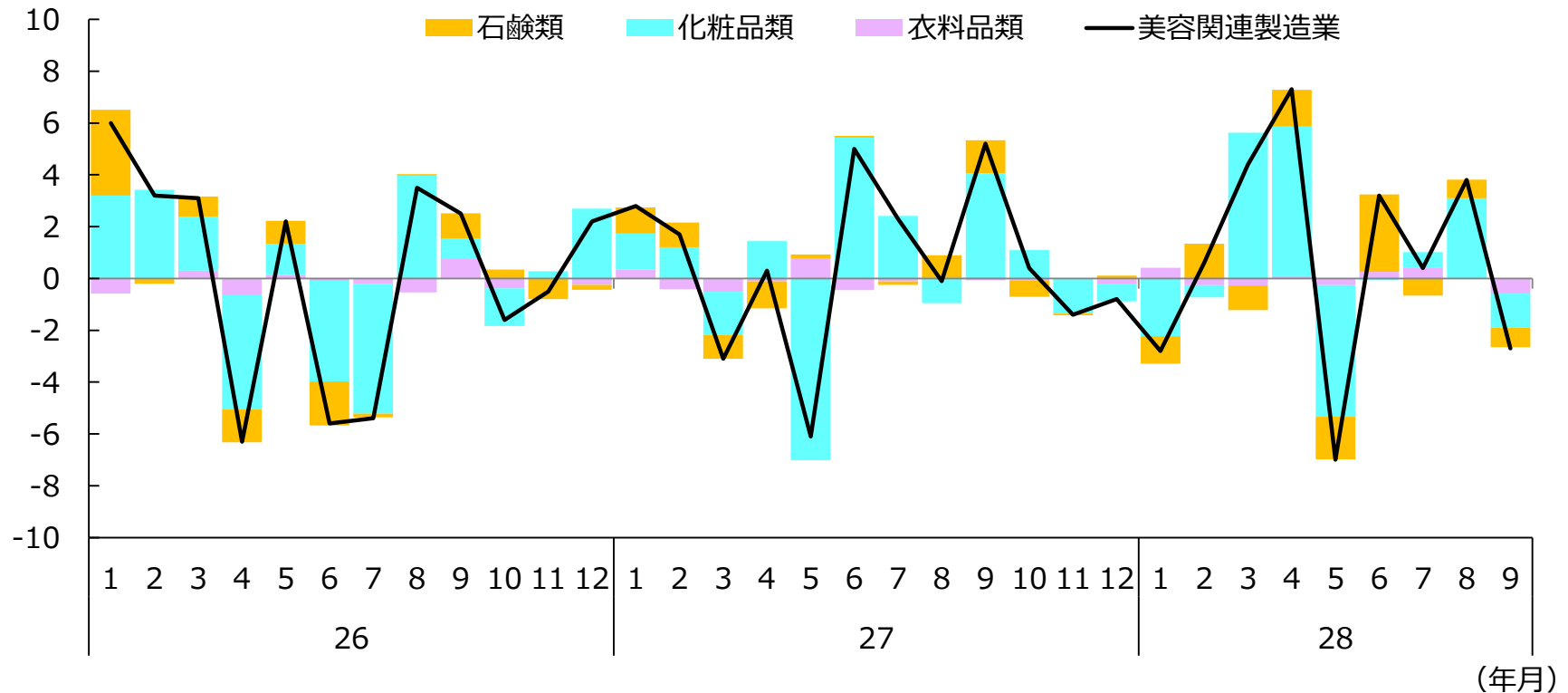
資料：経済産業省「鉱工業指数」

美容関連製造業の前月比寄与度

- 化粧品類の生産は、9月は低下寄与となったが、7、8月と2か月連続の上昇寄与となり、7-9月期の美容関連製造業の上昇要因となった。
- 消費税率引上げ直後と5月の季節商品の切替え時に大きく生産が低下したものの、それ以外では、小幅低下と前月比上昇が続いている。

美容関連製造業の生産変動の品目別要因分解

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

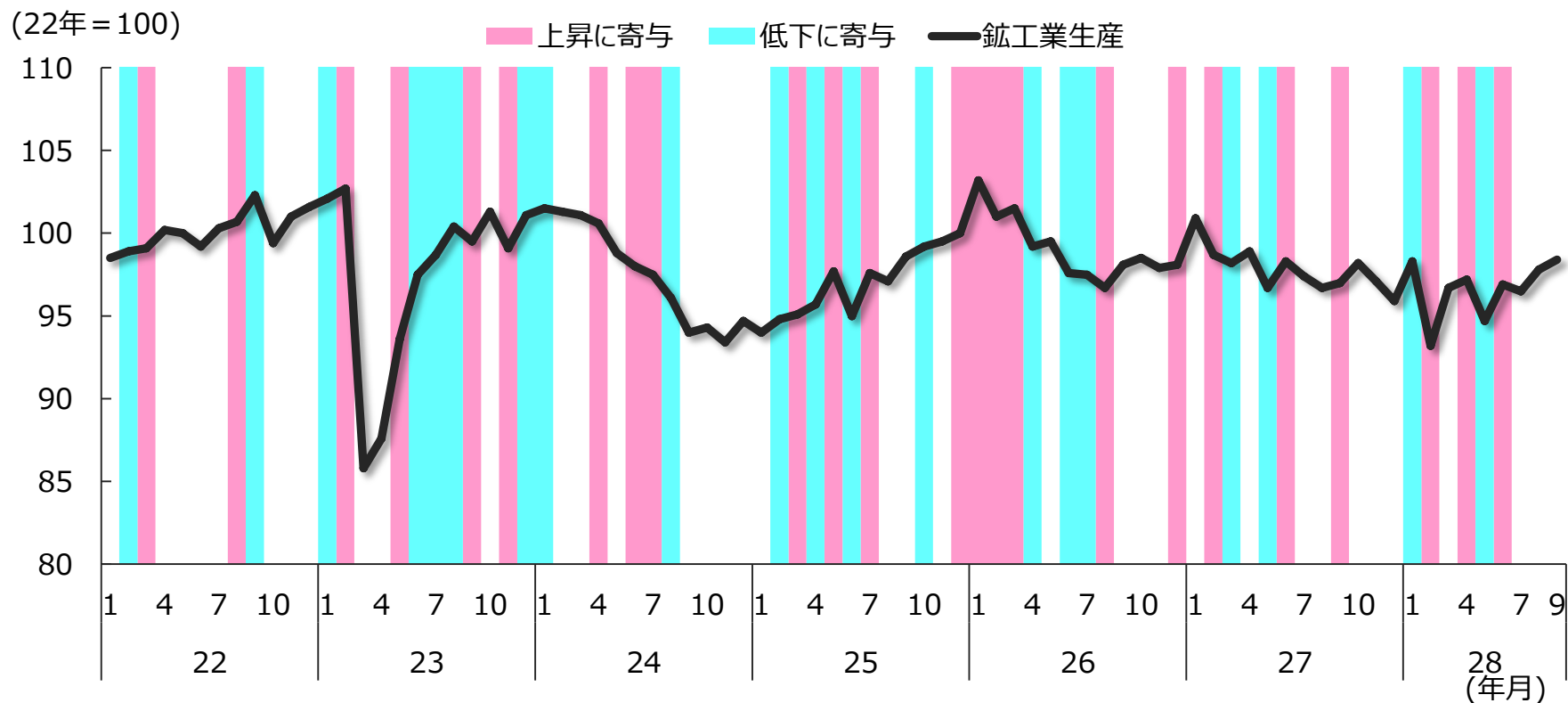


資料：経済産業省「鉱工業指数」

鋳工業生産に対する化粧品生産の存在感

- 化粧品（BBIの化粧品類と石鹸類の合計）が鋳工業生産への変動寄与で全109品目中上位5位以内になった月を数えると、22年1月から28年9月までの81か月のうち上位5位以内の月は実に44。
- 鋳工業生産と重ね合わせてみると、23、24年の局面を除けば、鋳工業生産の上昇局面では化粧品の上昇が目立ち、鋳工業生産の低下局面では化粧品の低下が目立つことから分かるように、化粧品の生産は景気動向とも関わりがある。

化粧品が鋳工業全体への変動寄与で全109品目中上位5位以内になった局面

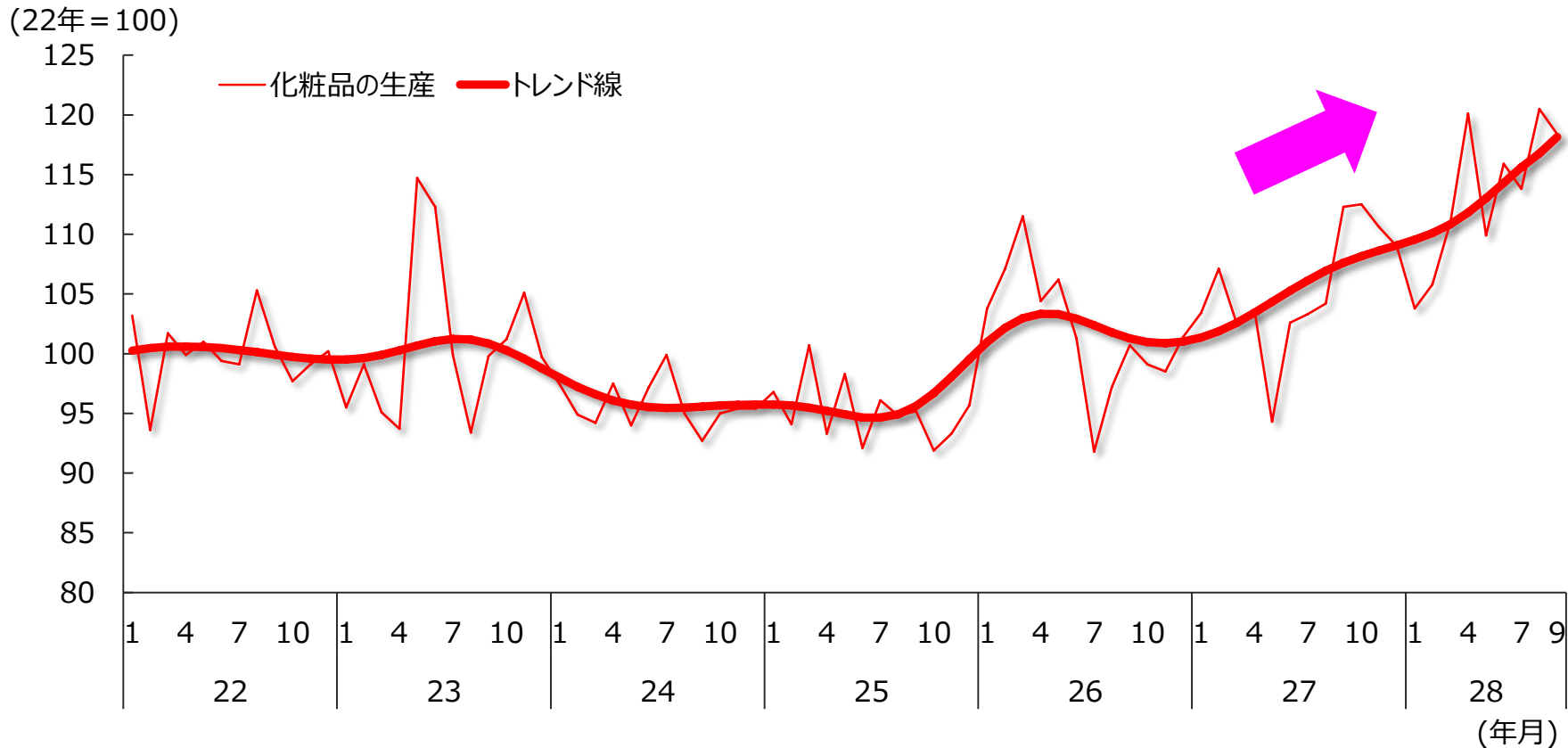


資料：経済産業省「鋳工業指数」

化粧品の生産動向

- 化粧品生産のトレンド線を確認すると、25年までは低調に推移してきたが、26年から持ち直しの動きがみられ、27年以降は上昇基調で推移。
- 基準年=100に対して、化粧品の生産指数のトレンド線は、120に向かう勢い。

化粧品生産の推移



資料：経済産業省「鉱工業指数」

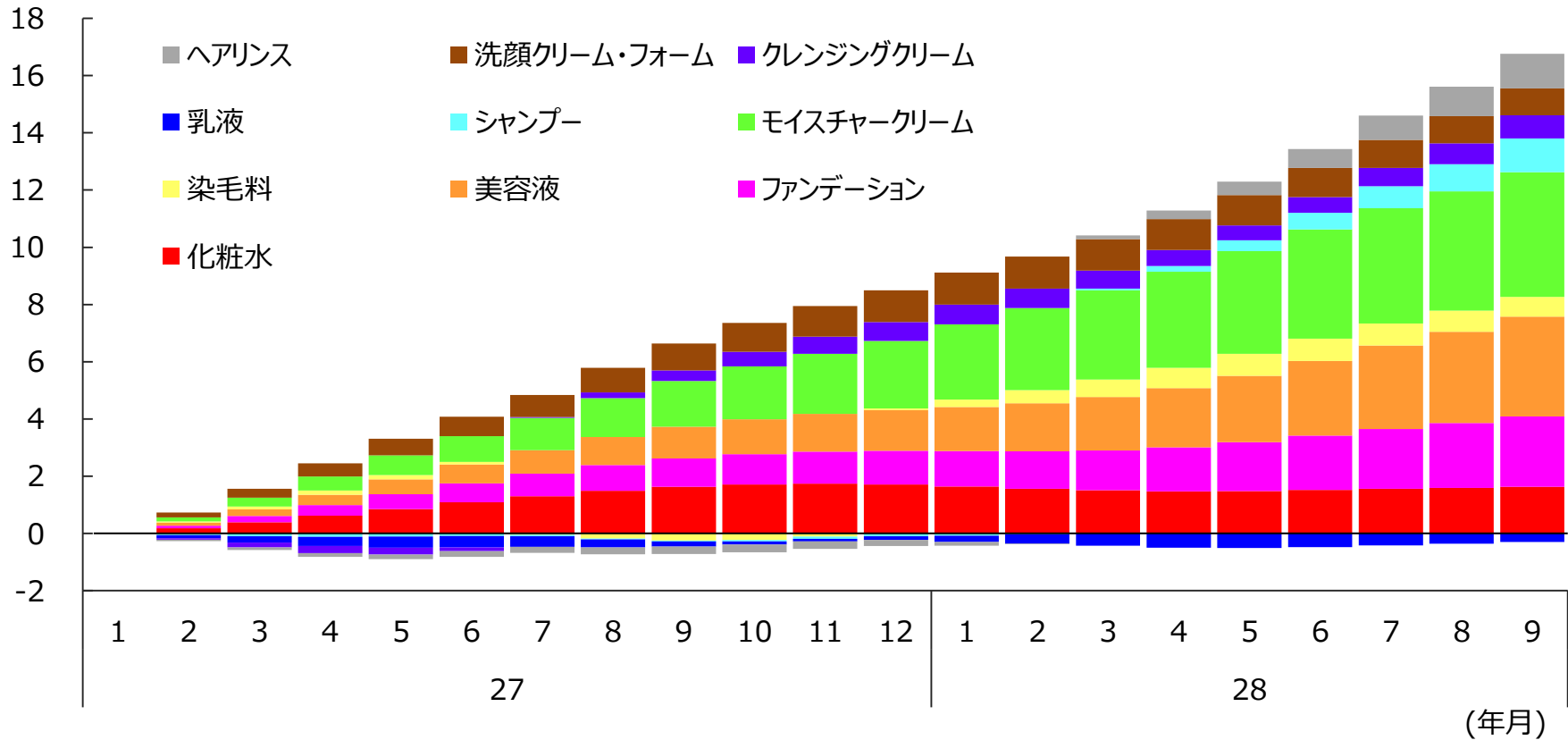
注：トレンド線には、X12-ARIMA(デフォルト)を用いて趨勢循環変動成分を抽出したものを使用。

化粧品の生産変動の品目別寄与度分解

- 27年1月以降の生産の上昇要因を品目別に見ると、モイスチャークリーム、美容液の順に寄与が大きい。

化粧品の生産変動の品目別要因分解（平成27年1月の水準との比較）

(27年1月の水準との比較、寄与度、%ポイント)



資料：経済産業省「鉱工業指数」

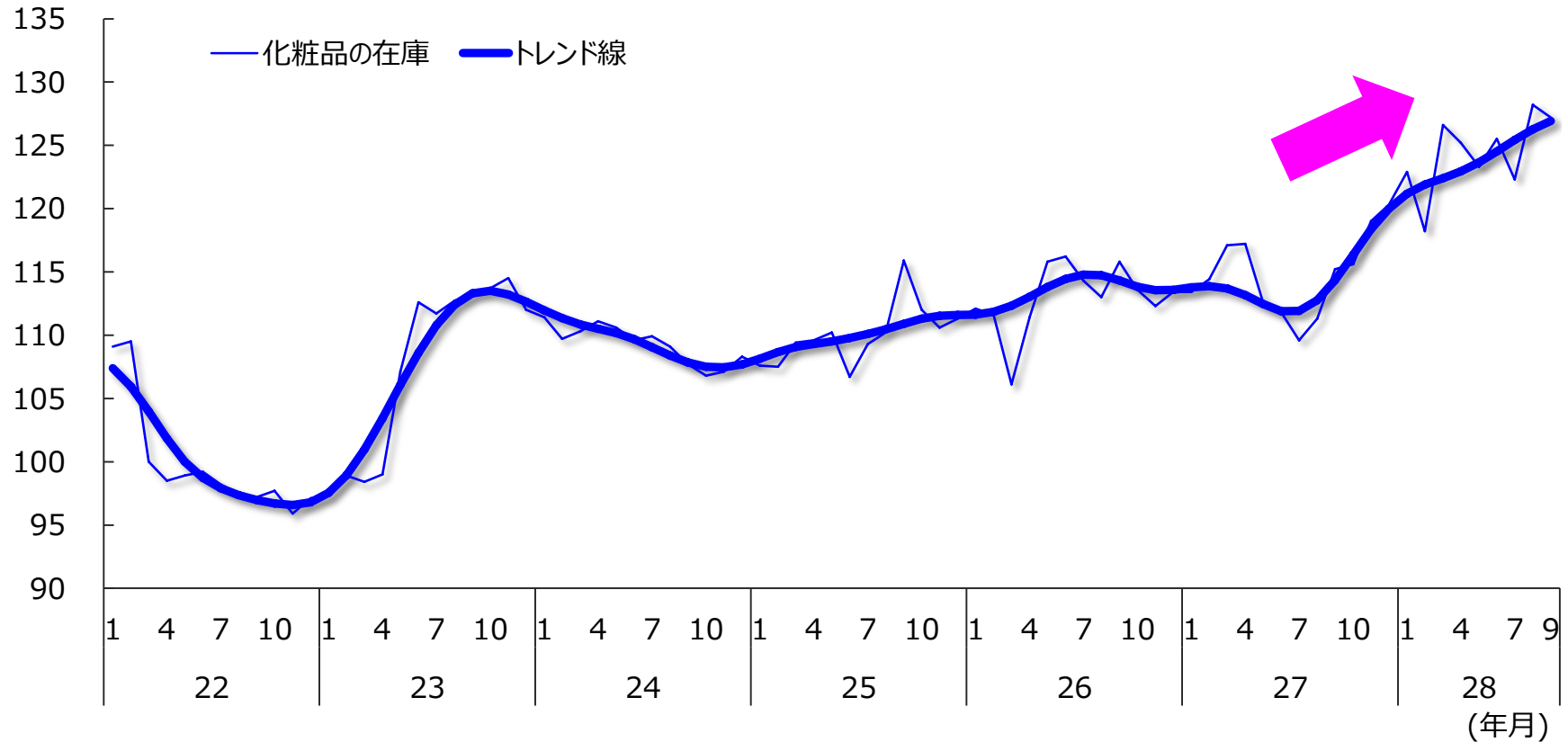
注：寄与度計算の基となる指数値には、X12-ARIMA(デフォルト)を用いて趨勢循環変動成分を抽出したものを使用。

化粧品の在庫の推移

- 化粧品在庫のトレンド線を確認すると、25年から緩やかな上昇傾向にあったが、特に27年後半からは上昇傾向が顕著。
- トレンド線は、基準年 = 100に対し、在庫指数130を目指す勢い。

化粧品在庫の推移

(22年 = 100)



資料：経済産業省「鉱工業指数」

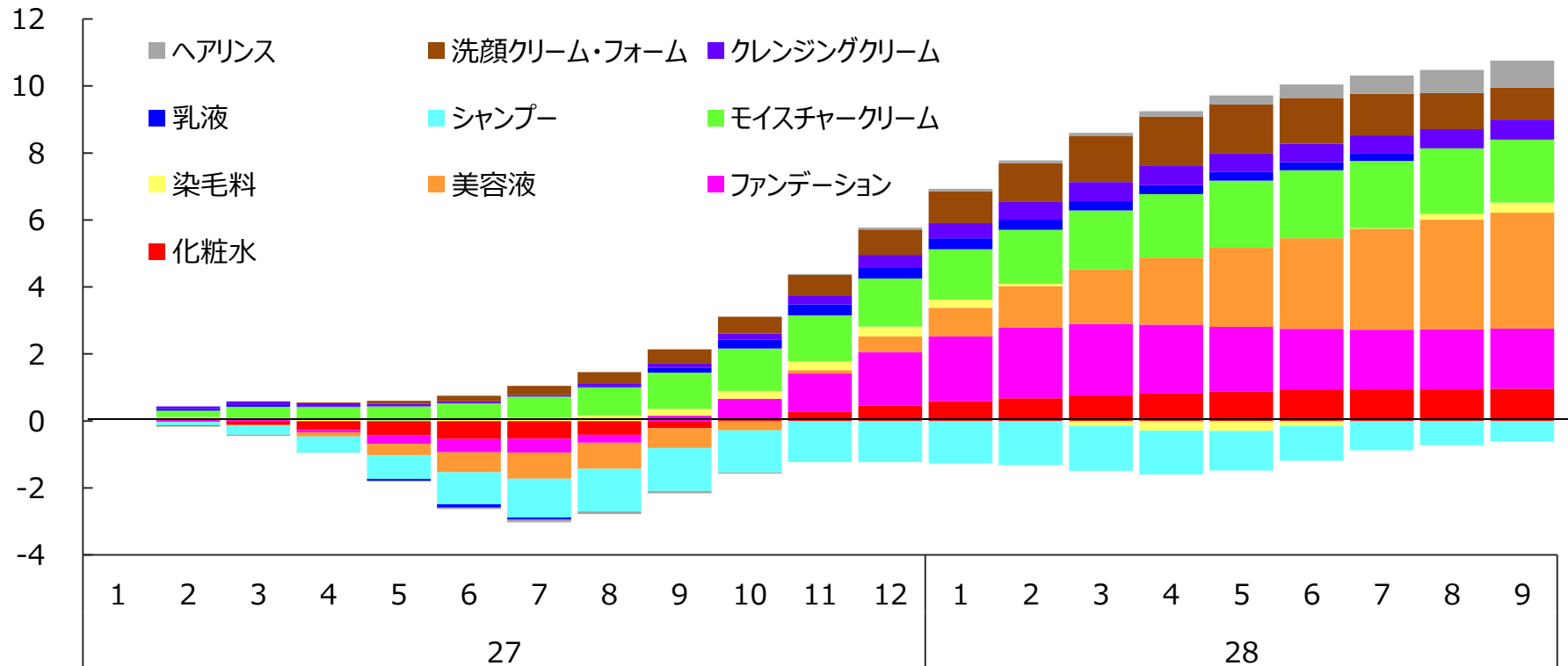
注：トレンド線には、X12-ARIMA(デフォルト)を用いて趨勢循環変動成分を抽出したものを使用。

化粧品の在庫変動の品目別寄与度分解

- 27年1月以降の在庫の上昇要因を品目別に見ると、美容液、モイスチャークリームに寄与が大きい。

化粧品の在庫変動の品目別要因分解（平成27年1月の水準との比較）

(27年1月の水準との比較、寄与度、%ポイント)



資料：経済産業省「鉱工業指数」

注：寄与度計算の基となる指数値には、X12-ARIMA(デフォルト)を用いて趨勢循環変動成分を抽出したものを使用。

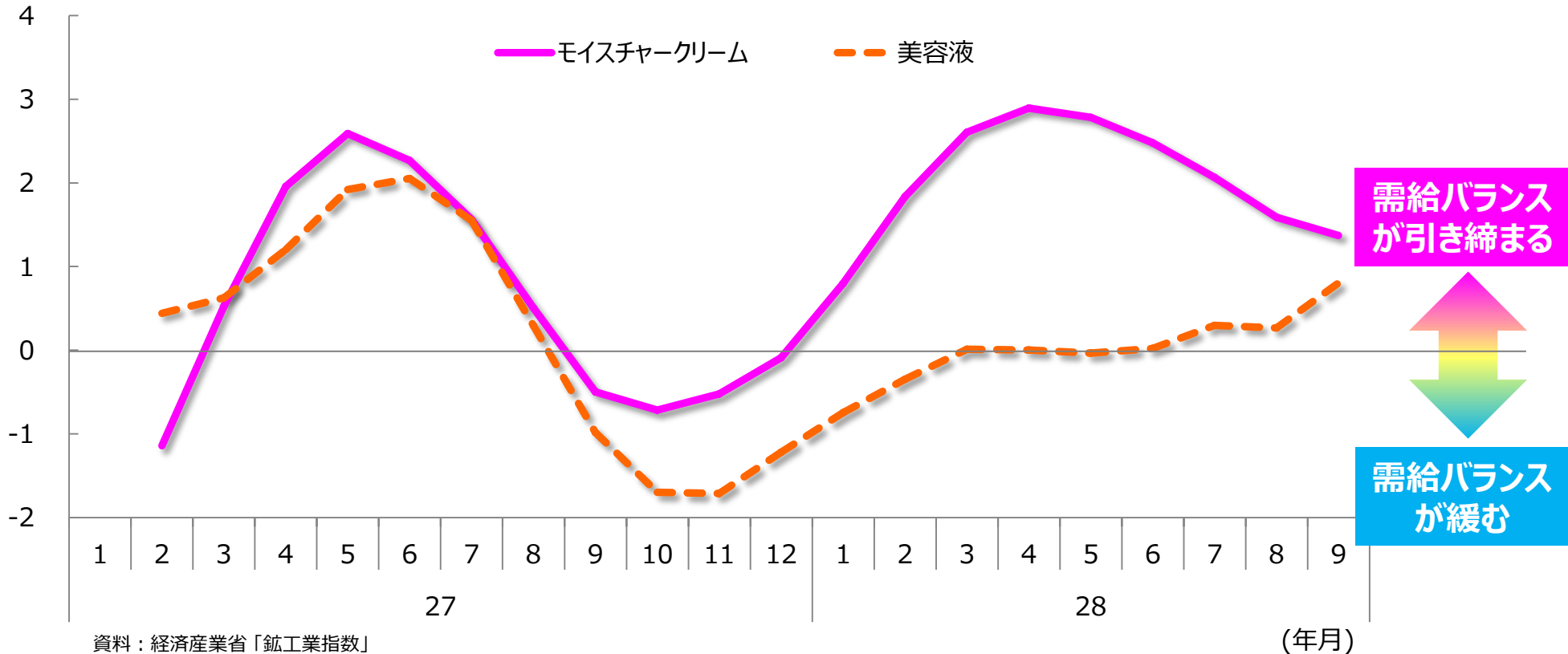
(年月)

モイスチャークリーム、美容液の需給バランス

- モイスチャークリームの需給バランスは引き締まっており、意図的に在庫を積み増してきた模様。しかし、足下では逼迫度合いがやや緩和されてきている状況。
- 美容液は、27年後半は需給バランスが緩んでいたが、足下では引き締まってきた。

モイスチャークリームと美容液の需給バランス

(出荷前月比-在庫前月比、%ポイント)



資料：経済産業省「鉱工業指数」

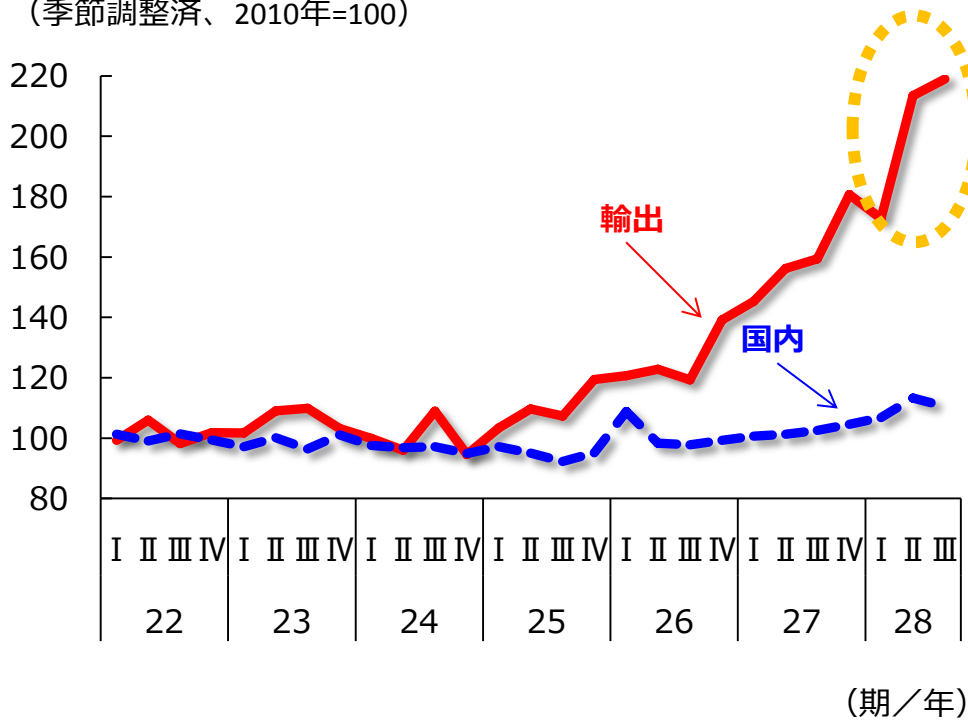
注：需給バランスの計算の基となる指数値には、X12-ARIMA(デフォルト)を用いて趨勢循環変動成分を抽出したものを使用。

化粧品の出荷内訳（国内外・仕向け先）

- 生産上昇でも需給が引き締まっている背景には、化粧品の輸出向け出荷の急激な伸びがある。
- 化粧品の輸出向け出荷は、28年4-6月期には、22年の水準の2倍を超えている。
- 主たる輸出先はアジアで、特に中国向け出荷の割合が高い。

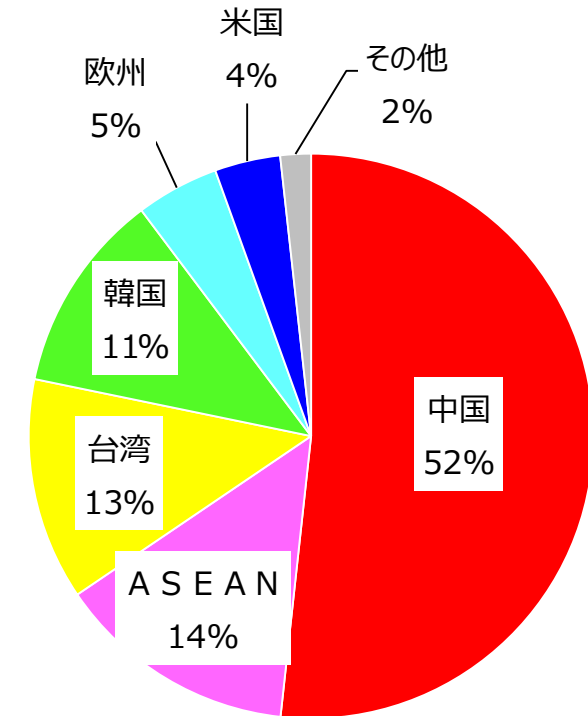
化粧品の出荷内訳

（季節調整済、2010年=100）



資料：経済産業省「鉱工業出荷内訳表」

化粧品の輸出仕向け先割合



（注）割合
 = (各ウェイト×H28年第Ⅰ～Ⅲ四半期の原指数の合計) ÷
 { (各ウェイト×H28年第Ⅰ～Ⅲ四半期の原指数の合計) の合計 }

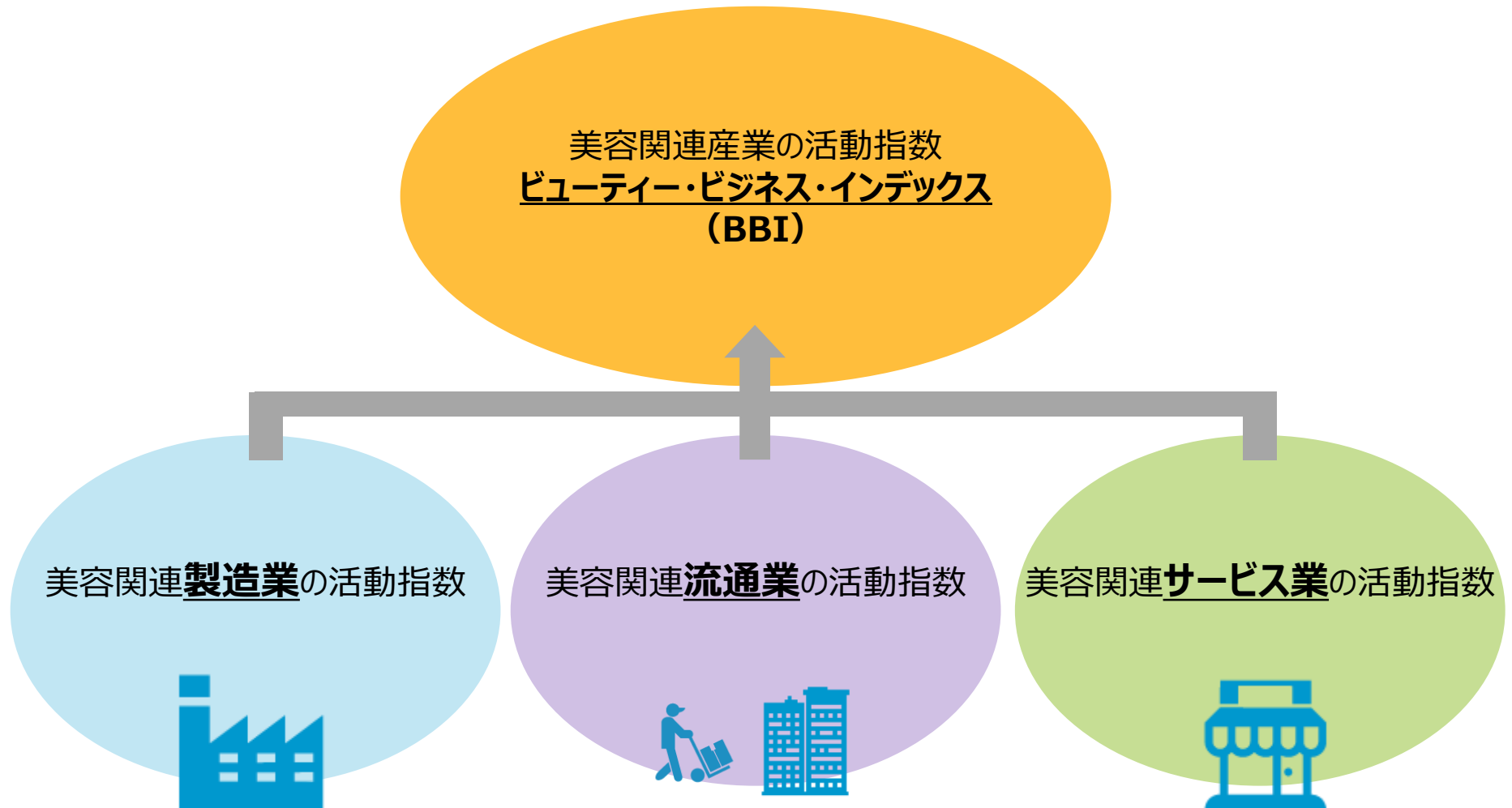
まとめ

- BBI全体では、平成26年4月消費税率引き上げ前の水準には戻っていないが、今年4-6月期は、前期比3.0%上昇と、消費税率引上げ前の駆け込み需要期であった26年1-3月期以来の上昇幅。
- そのけん引役は、美容関連製造業。特に、石鹼類、化粧品類の生産が、27年後半から好調。他方、衣料品類の生産は長期的に低調なまま。
- このため、化粧品（石鹼類、化粧品類の合計）の生産は、鉱工業生産全体に対しても大きな存在感を見せている。
- 具体的に伸びている品目をみると、ここ1年ではモイスチャークリーム、美容液の上昇寄与が大きいですが、これらの品目は在庫の上昇にも大きく寄与。モイスチャークリーム、美容液の需給バランスは、足下で引き締まってきている。化粧品類は、生産と在庫が拡大均衡で成長している。
- この背景には、27年以降の輸出向け出荷の急激な伸びがある。大半がアジア向けで特に中国の割合が大きい（インバウンドとは別の需要拡大分野）。

(参考) ビューティー・ビジネス・インデックス の作成方法

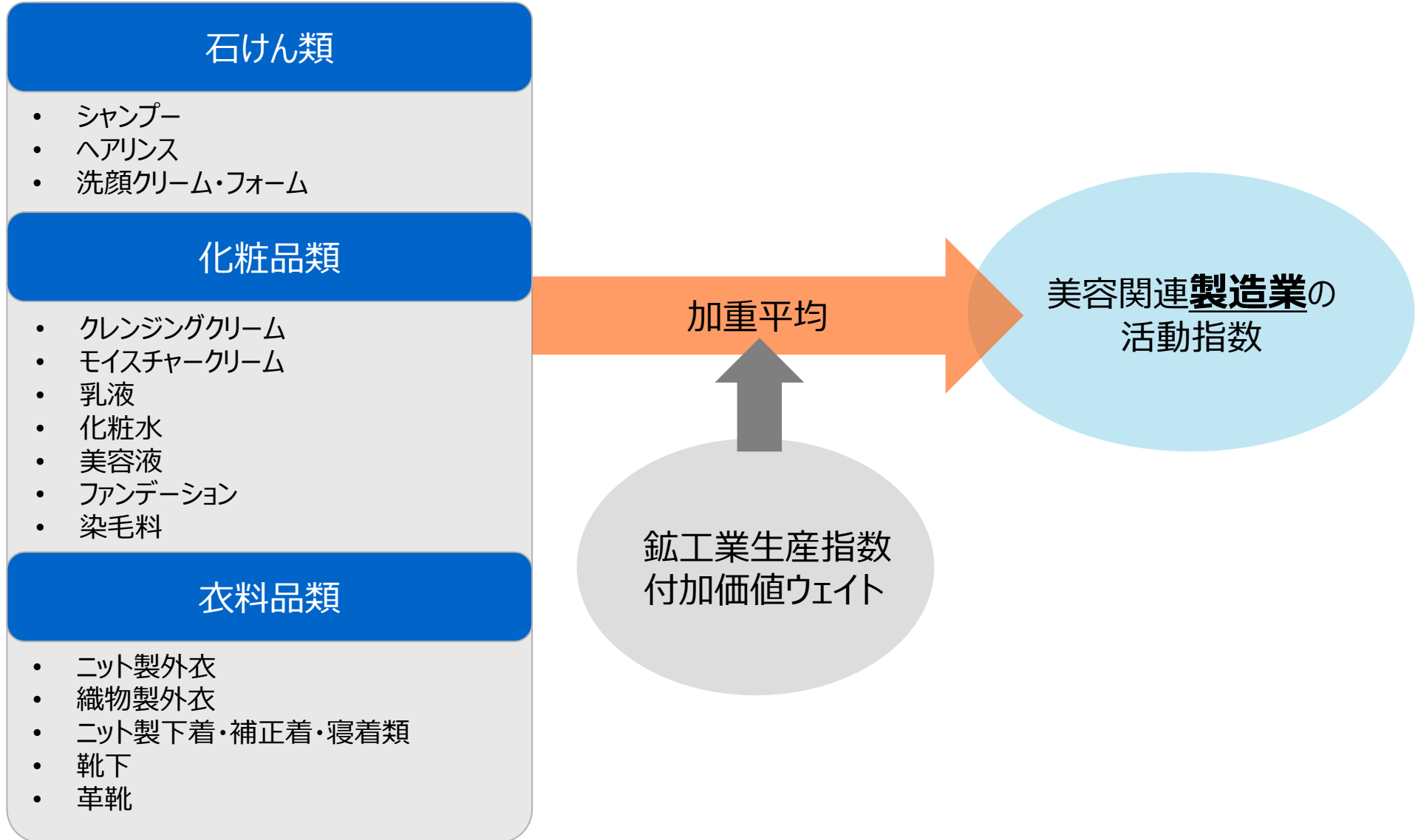
ビューティー・ビジネス・インデックスの概観

- 美容関連産業の活動を総合して、ビューティー・ビジネス・インデックス(BBI)を作成。
- 美容関連産業活動は大きく美容関連製造業、美容関連流通業、美容関連サービス業に大別され、これら3つの活動指数を統合することでBBIとしている。

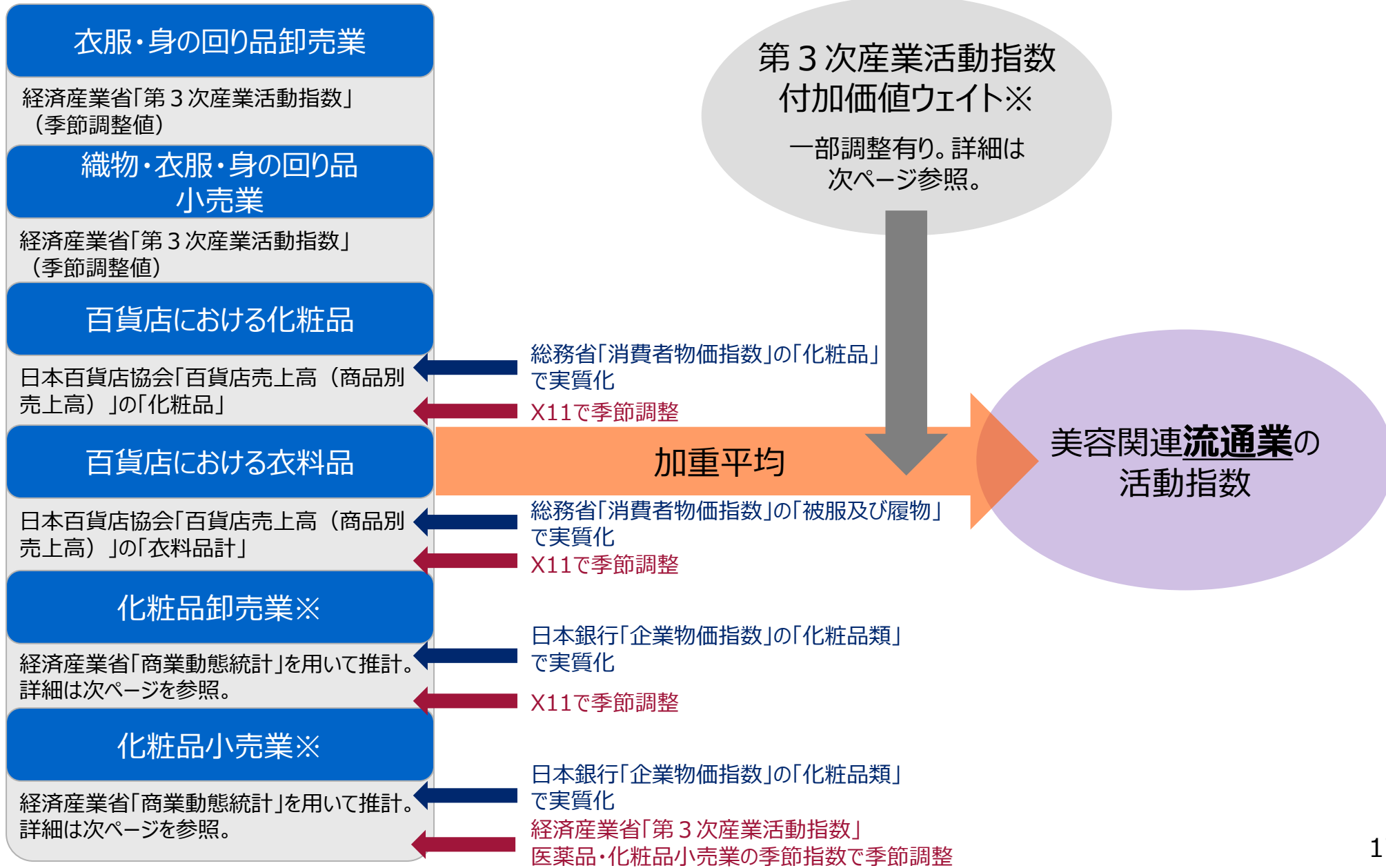


美容関連製造業の活動指数の作成方法

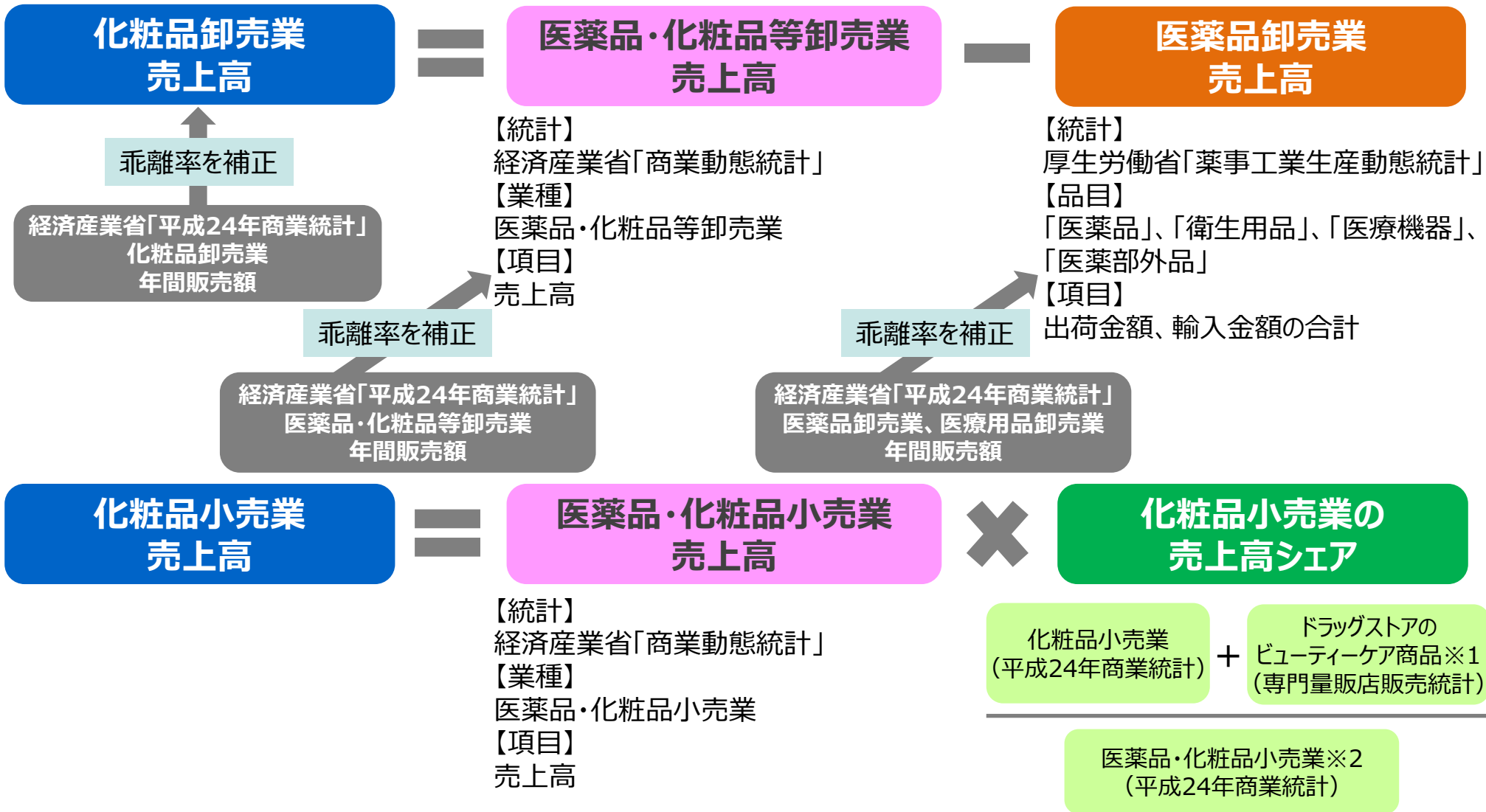
経済産業省「鉱工業生産指数」(季節調整値)



美容関連流通業の活動指数の作成方法



化粧品卸売業、化粧品小売業の推計方法



※1.ドラッグストアのビューティーケア商品の売上高は、専門量販店販売統計の統計開始が平成26年1月であるため、平成26年のドラッグストアの売上に占めるシェアを利用。
 ※2.平成22年6月以前は、「医薬品・化粧品小売業」という系列は存在せず、「医薬品・化粧品小売業、その他小売業」であったため、同年7月以降のデータを用いて平均シェアを算出し、按分することで推計した。

【統計】
経済産業省「平成24年商業統計」、
「専門量販店販売統計」

美容関連流通業の付加価値ウェイトの調整方法

第3次産業活動指数
付加価値ウェイト

衣服・身の回り品卸売業

調整なし

織物・衣服・身の回り品
小売業

調整なし

百貨店における化粧品

採用ウェイト：各種商品小売業

調整方法：百貨店売上高の占める化粧品のシェアで按分

百貨店における衣料品

採用ウェイト：各種商品小売業

調整方法：百貨店売上高の占める衣料品計のシェアで按分

化粧品卸売業

採用ウェイト：医薬品・化粧品等卸売業

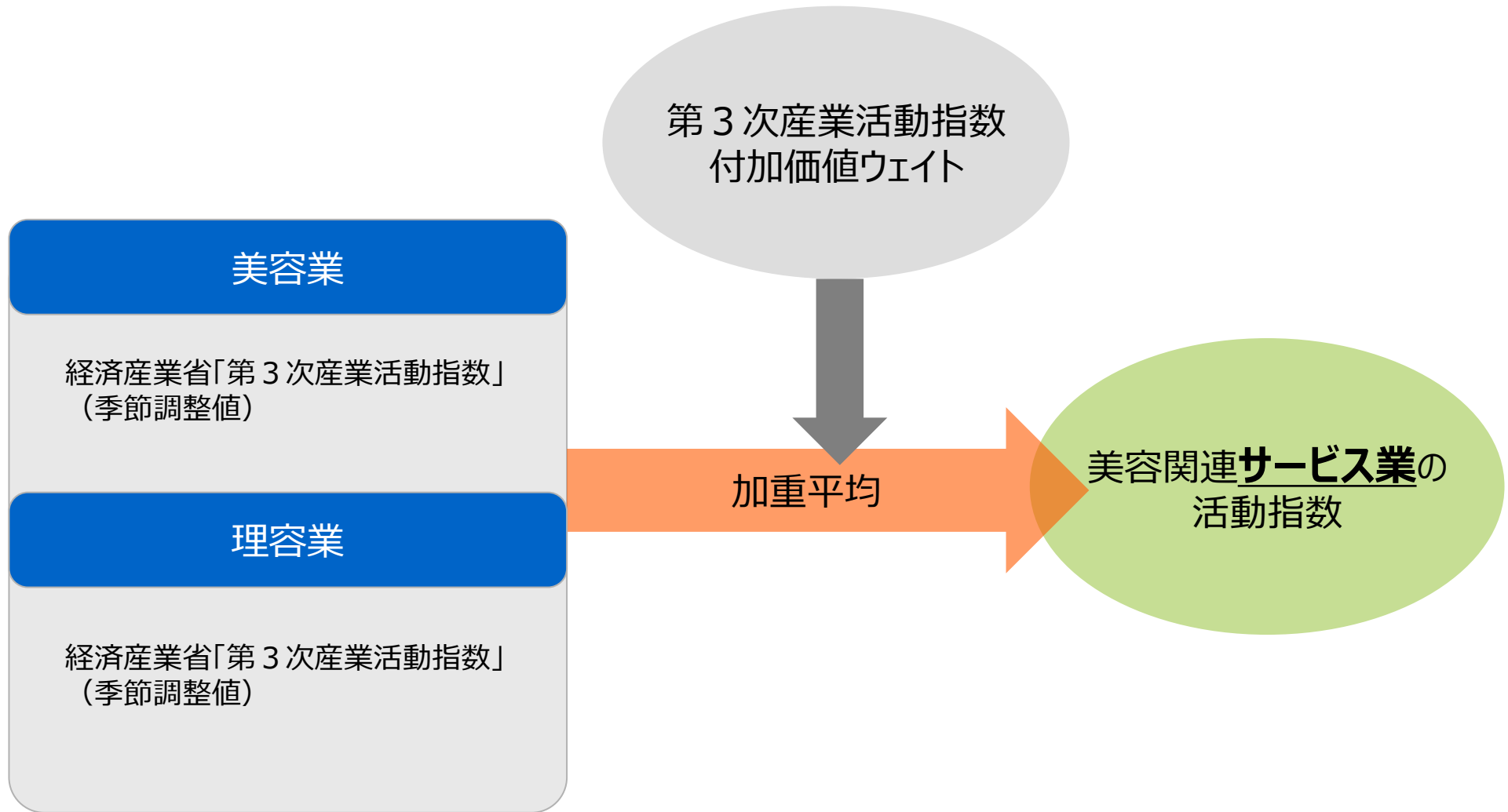
調整方法：商業動態統計の医薬品・化粧品等卸売業の売上高に占める化粧品卸売業売上高（推計値）のシェアを用いて按分

化粧品小売業

採用ウェイト：医薬品・化粧品小売業

調整方法：商業動態統計の医薬品・化粧品小売業の売上高に占める化粧品小売業売上高（推計値）のシェアを用いて按分

美容関連サービス業の活動指数の作成方法



ビューティー・ビジネス・インデックスの作成方法

美容関連製造業の活動指数

全産業活動指数の
鉱工業生産ウェイト
×
活動指数のウェイト

美容関連流通業の活動指数

全産業活動指数の
第3次産業活動ウェイト
×
活動指数のウェイト

美容関連サービス業の活動指数

全産業活動指数の
第3次産業活動ウェイト
×
活動指数のウェイト

加重平均

各活動指数のウェイト
(全産業活動指数の
ウェイトで調整済)

美容関連産業の活動指数
ビューティー・ビジネス・インデックス
(BBI)

